

# 加瀬みきの ワシントン発 グローバル随想



イラスト・題字：長峯亜里

第28回

## ミズーリ号： 敵から友への象徴

コロナ禍が明け、昨年、一昨年と訪日外国客が一気に増えている。アメリカ人も2019年の172万4千人から昨年は272万5千人と58.1%増だった。日本食はもちろん美術工芸、神社仏閣からお城など歴史的建造物、四季折々の景色、日本文化の体験などにひかれるようである。さらに日本はなんとといっても安全で、人々は親切で礼儀正しい。日本は本当に居心地の良い国と多くの外国人が親しみをもつ。

### 敵を鬼畜と見なした戦争

しかし、わずか80年前にはそのアメリカと戦争をし、日本の敗戦後には占領軍の連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)が置かれた。第一生命日比谷ファーストを見てマッカーサー総司令官がそこで日本の将来を決めていたことを知る人はどれだけいるだろう。それどころかアメリカと戦争をしたことを知らない日本の若者も多い。ハワイに旅してもパール・ハーバーを訪ねる人も日本がパール・ハーバーに停泊中の艦船を爆撃しアメリカとの戦争が始まったことを知る人も少なくなっている。敵国はすぐに憧れの国になり、今は身近で頼りにする国である。

しかし、戦時中の日本ではアメリカ兵を「鬼畜米英」と呼び、雑誌『漫画』はルーズベルト米大統領を人間でなく怪物として描き恐怖をあ

おっていた。一方、歴史学者でマサチューセッツ工科大学名誉教授ジョン・ダワーの『容赦なき戦争』に描かれているように、アメリカでは漫画やスローガン、プロパガンダ映像で日本人を醜い、黄色い、攻撃的なサルといった非人間的なイメージを広げ、米兵の日本兵への敵対心を固めた。アメリカではアメリカ国籍者も含め日系アメリカ人が強制収容された。イタリア系アメリカ人やドイツ系アメリカ人に比べ厳しい扱いを受けたのは、アジア人に対する人種差別があったのだろう。アメリカ政府はこの非人道的な行為について、レーガン大統領時代になってやっと「市民としての基本的自由と、憲法で保障された権利を侵害した」として正式に謝罪した。

### 米艦長が命じた敵兵の水葬

そんな戦争の末期、沖縄戦のさなかだった。1945年4月11日、鹿児島県喜界島沖では多くのゼロ戦が飛び交い、米戦艦突撃を凶った。そのうちの一機、超弩級戦艦ミズーリに激突した戦闘機は2つに割れ火の玉となった。米戦艦には重傷を負った者はなかったが、戦闘機とパイロットの遺体の一部が戦艦に落下した。

ミズーリ号のウィリアム・キャラハン艦長はこの特攻隊兵士を軍葬の礼をもって水葬するよう命じた。しかし、「人間ではない」と刷り込